

研究開発体制調査報告書

『医薬品メーカー』

Ver. 1.1

20XX 年 XX 月 XX 日

東京イノベーション&テクノロジー株式会社
Tokyo Innovation & Technology Corporation

Copyright©2014TokyoITC All Rights Reserved

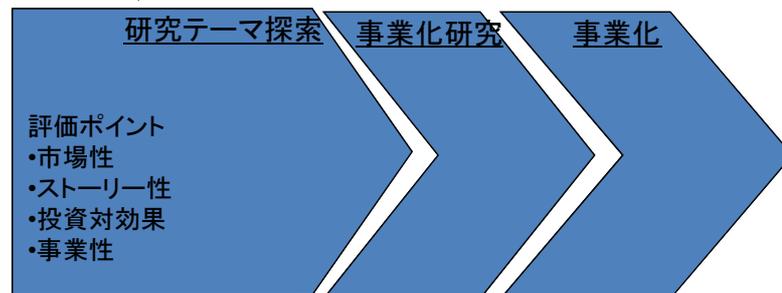
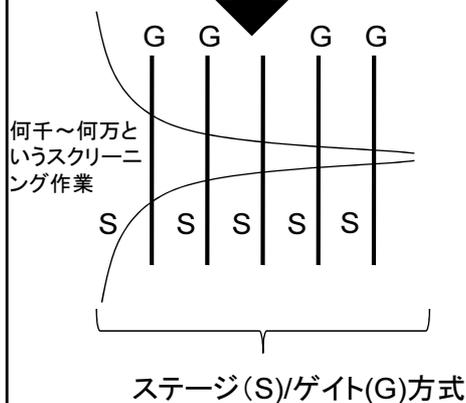
目 次

1.	会社概要<XXXX>	P3
2.	企業グループ概要	P4
3.	売上と研究開発費の推移	P5
4.	全社組織図	P6
5.	事業部門別製品	P7
6.	研究テーマ種別とその内容	P8
7.	ステージゲート方式	P9
8.	医薬開発におけるステージゲート方式	P10
9.	研究開発費負担とその分配	P11
10.	研究テーマの起案、成果の周知方法(化学分野)	P12
11.	他社研究開発事例1	P13
12.	他社事例2<概要>	P14
13.	他社事例2<研究開発>	P15
14.	他社事例2<三位一体>	P16

6. 研究テーマ種別とその内容



事業ドメイン毎に大きく異なる・・・

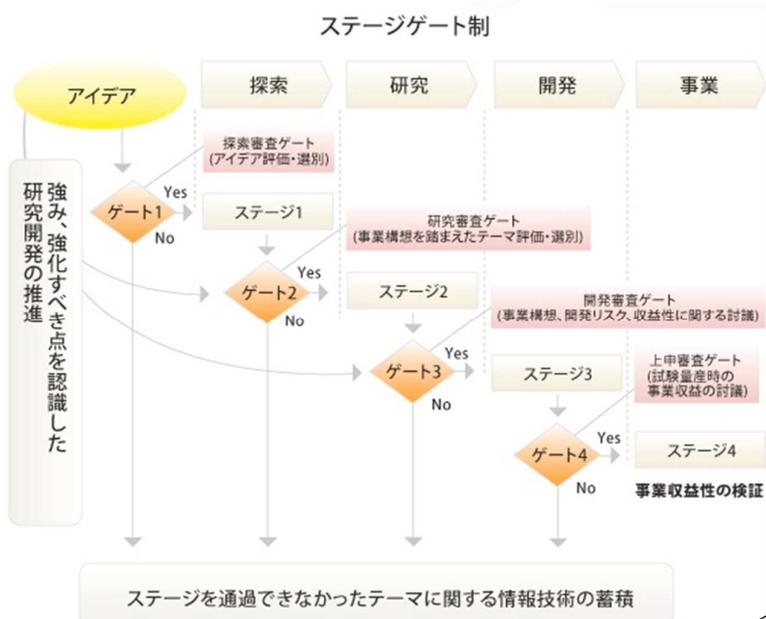


化学分野の事業化の場合は、大規模プラントが必要や場合や、大量生産を前提とする為、トライ&エラー的な取り組みは難しいため、慎重に市場性や投資対効果を評価する。

3

7. ステージゲート方式

- 研究開発テーマをスピーディーに事業へ結びつける。
- 研究開発の早い段階から事業化に向けて必要な項目を継続的に確認し、スケジュールに反映させることが可能。
- 全ての研究開発テーマに対し、4つのステージ「探索」「研究」「開発」「事業」を設定。
- 多面的視点(戦略性、技術性、自社の競争力、収益性、市場性、社会適合性)から評価シートを用い共通基準で客観的に評価を実施。
- ステージによって評価の重点を変え、研究のGo/Stop及びステージアップを迅速かつ明確に決定可能。
- 各段階での評価は研究者にフィードバックする。
- 研究者は自分のテーマの強みや強化すべき点を認識でき、効率的かつスピーディーに研究開発を進めることも可能となる。



<昭和電工HPより>

4

10. 研究テーマの起案、成果の周知方法（化学分野）

